

Philosophy 理念体系

滋賀銀行グループは、2033年に迎える創立100周年と、その先の未来に向けて、役職員が心を一つに歩み続けるために、パーパス（存在意義）『三方よし』で地域を幸せにする』を制定しました。

パーパスを頂点とする理念体系のもと、伝統ある近江商人の商人道徳である「三方よし」の精神を継承した行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」を活動の原点とし、経営理念に掲げた「地域社会」「役職員」「地球環境」との「共存共栄」の実現に努めることを通じて、企業価値の向上に取り組みます。



5 Our Story

- 5 トップメッセージ
代表取締役頭取 久保田 真也
- 11 滋賀銀行グループの企業価値
向上に向けたあゆみ
- 13 TOPICS
資本政策の考え方・企業価値
向上に向けた取り組み
- 15 財務担当役員メッセージ
取締役常務執行役員 遠藤 良則
- 19 財務・ESG ハイライト

23 Value Creation

- 23 長期戦略・価値創造ストーリー
- 25 マテリアリティ (重点取組課題)
- 27 強み・活用する資本
- 29 第8次中期経営計画
- 31 第8次中期経営計画の達成指標・進捗状況
- 33 基本戦略① インパクトデザイン
- 45 基本戦略② ベース for グロース
- 53 基本戦略③ ヒューマンファースト
- 53 人事担当役員メッセージ
代表取締役専務執行役員 堀内 勝美

63 Sustainability

- 63 責任銀行原則の取り組み
- 65 地球環境との「共存共栄」への取り組み
- 71 誰もが幸せになれる魅力あふれる
地域社会へ

73 Governance

- 73 コーポレート・ガバナンス
- 73 取締役会議長メッセージ
取締役会長 高橋 祥二郎
- 79 社外取締役座談会
- 83 役員一覧
- 85 リスク管理
- 91 コンプライアンス (法令等遵守) の
取り組み
- 95 ステークホルダーエンゲージメント

96 Data

- 96 財務データ (連結)
- 97 ESG データ
- 99 外部からの評価
- 101 コーポレート・データ

統合報告書2025 編集テーマ

「統合報告書2025」は、滋賀銀行グループの価値創造を支える理念体系を軸として、中長期的に実現したい地域社会の姿からバックキャストिंगで課題を洗い出し、経営戦略やビジネスモデルを通じていかに解決し、企業価値向上につなげていくのかをわかりやすくお伝えすることを目的としています。

財務・非財務資本を磨き上げる取り組みに加え、それぞれの資本が結び付き、当行グループの事業を通じて、地域社会へのインパクトを共創する「地域を幸せにする好循環」の考え方をご理解いただけるよう編集しています。

当行グループは統合報告書を用いて、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまとの対話を積極的に実践しています。皆さまからいただいたご意見は、経営の高度化につなげるとともに、以降の情報開示・対話機会に反映するよう努めています。

あわせて、職員も重要なステークホルダーであり、統合報告書を活用し、職員一人ひとりの企業価値への意識向上に取り組んでいます。

滋賀銀行ディスクロージャー方針

1. 基本的な考え方

当行は、地域金融機関としての社会的責任と公共的使命のもと、透明性の高い情報開示を目指し、お客さま、株主、投資家、地域社会等をはじめとするすべてのステークホルダーの当行に対する理解を促進し、適正な評価に資するため、継続的に、公平かつ正確な情報開示を適時・適切に行ってまいります。

2. 開示する情報

当行は、銀行法・金融商品取引法等の諸法令および東京証券取引所が定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」等(以下「適時開示規則等」という)に従い、経営情報の開示を行います。

また、諸法令や適時開示規則等が定める重要事実該当しない情報であっても、ステークホルダーにとって有用であると判断される情報については、可能な限り公平かつタイムリーな情報開示を行います。

3. 情報開示の方法

諸法令および適時開示規則等で開示が求められている情報については、その定めに従い適時・適切に開示を行うほか、当行ホームページへの掲載等を通じて行います。

また、これら以外の自主的に開示している情報についても、適切な方法により、公平性や有用性の高い情報開示を行うよう努めます。

4. 情報開示の手続および体制

当行は、「経営関連情報開示規程」を制定し、総合企画部を経営関連情報開示統轄部署と定め、適時・適切な情報開示を行うための手続および体制の整備・充実を図っています。

また、情報の適正性を維持するため、必要に応じて監査法人などの専門家と協議を行うほか、適切性や有効性を定期的に検証いたします。

5. 将来予測に関する記述について

当行ホームページや統合報告書に記載されている情報には、当行その他グループ会社の財政状態および将来予測に関する記述が含まれております。

これらの将来予測の記述は、将来の業績等が記述どおりに達成されることを保証するものではなく、一定のリスクや不確実性が含まれており、今後の経営を取り巻く環境の変化などにより、実際の結果と必ずしも一致するものではありません。

統合報告書の発刊にあたって

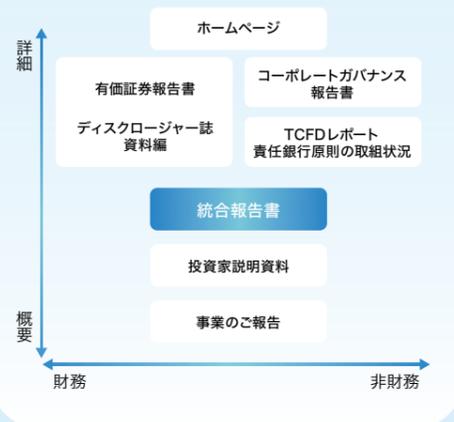
本書は、国際会計基準財団(IFRS)が提示する「国際統合報告フレームワーク」および経済産業省の「価値協創ガイダンス」を参考にして、財務情報に経営理念・戦略・ESG情報(環境・社会・ガバナンス)などの非財務情報を関連付け、当行ならびに地域社会の持続可能な価値創造の仕組みを統合的に編集しています。また、本書は、銀行法第21条に基づくディスクロージャー資料(業務および財産の状況に関する説明書類)を兼ねています。ディスクロージャー誌としてご利用の際は、本書、および情報編(当行ホームページに掲載)、「SHIGA BANK REPORT 2025 財務データ・パーゼルIII 第3の柱開示編」(同)をあわせてご参照ください。なお、本書は、当行の「ディスクロージャー方針」に従った適切な開示が行われていることを経営陣等が確認しています。



見通しに関するご注意

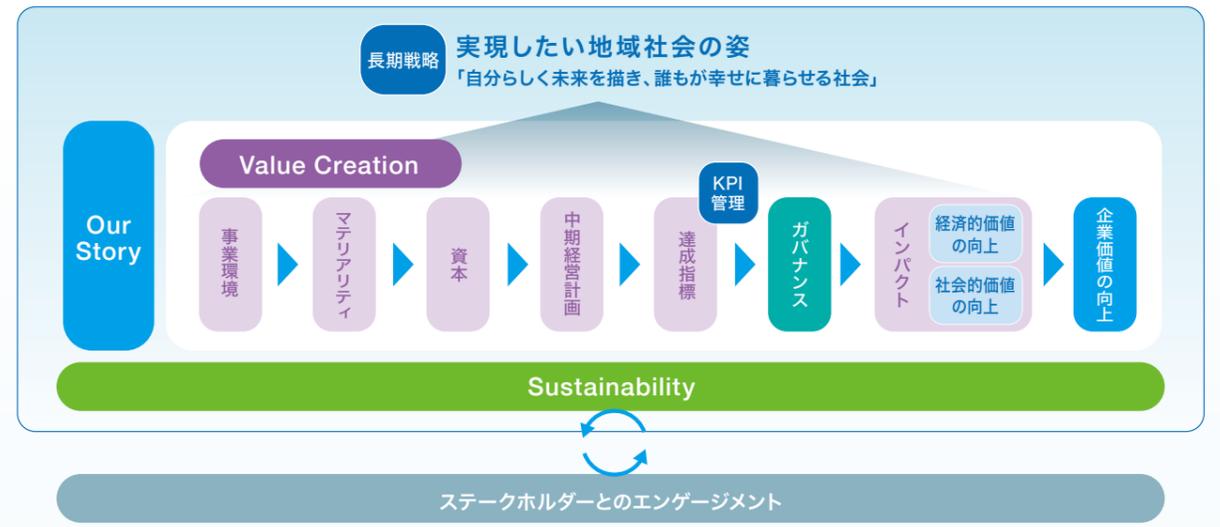
本書には、当行に関連する業績予想および計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、本書作成時点における入手可能な情報および将来の業績に影響を与える予測や一定の前提(仮定)等を基に記載しており、当行の将来の業績を保証するものではなく、さまざまなリスクや不確実性を内包しています。

主な開示媒体



統合報告書2025 構成体系

本書は、滋賀銀行の価値創造ストーリーを説明するために、下図のような構成体系をもとに編集しています。本書を通して、当行グループの価値創造ストーリーを理解いただくうえで重要な要素である、理念体系や戦略、ガバナンスなどを網羅的に伝えることができるよう、Sustainabilityを一気通貫する軸として、ストーリーを組み立てて作成しています。



長期戦略 (P23~24)	地域の成長なくして、当行グループの成長はありません。そのため、当行グループは「実現したい地域社会の姿」を長期戦略(長期目標)としています。
Our Story (P5~22)	近江商人の「三方よし」の精神を継承した普遍的な考え方である行是を基礎とする理念体系を軸に、当行グループが地域とともに成長するための価値創造ストーリーを組み立てています。当行グループの企業価値向上に向けた取り組みの基礎となります。
Value Creation (P23~62)	グループ内外のさまざまな資本を活用し、お客さまの課題解決や地域の成長に資する投資を行い、経済活動を活性化し、ビジネス機会を拡大します。そして地域と当行グループの稼ぐ力を向上させ、次の課題解決や投資につなげる「地域を幸せにする好循環」を生み出します。そのエンジンが8次中計です。
Sustainability (P63~72)	当行は1990年代後半から「環境経営」に取り組み、2017年には地銀で初めて「SDGs宣言」を表明し、サステナビリティ経営へ進化してきました。Sustainabilityは当行が他社に先駆けて取り組んできた経営戦略です。
Governance (P73~95)	戦略を着実に実行し、持続可能性の高い組織の形成、持続的な企業価値の向上に向け、ガバナンス、リスク管理の仕組みを整えています。また、当行は早くからFIRBを採用し、RAFによる高度なリスク管理を行っています。

統合報告書2025注目コンテンツ

■P5~10 Top Message

パーパス「『三方よし』で地域を幸せにする」を体現すべくスタートした第8次中期経営計画の1年目の振り返りや見えてきた課題などを中心に、頭取のメッセージをお伝えします。

■P13~18 資本政策の考え方 企業価値向上に向けた取り組み 財務担当役員メッセージ

当行の資本政策の考え方やPBRロジックツリーを使用した具体的な企業価値向上に向けた取り組みをTOPICS形式で記載し、詳細を財務担当役員メッセージにまとめています。

■P53~62 ヒューマンファースト

第8次中期経営計画の基本戦略の一つ「ヒューマンファースト」について、1年間の取り組みと今後の課題を記載しています。また、「挑戦と称賛の文化」を実践した行員3名によるコメントも掲載しています。初めてのヒューマンアワードは当行グループのバリューである行是を体現した表彰制度です。

■P79~82 社外取締役座談会

社外取締役3名による座談会を実施しました。社外からの視点で、当行グループの取り組みへの評価や課題についてさまざまな意見をいただいています。